

ソーシャルアクションの実践的教育

1. 開催の趣旨

格差、貧困という言葉が当たり前のように使われるようになり、社会的排除が目に見えるところにまで広がっている。多くの人にとって制度や政策の良しあしが、生活のあり方を左右する。ソーシャルワーカーは、「人間の尊厳」の価値のもと、一人ひとりの生活課題の解決を支援しているが、個人や家族を対象としたミクロの活動に留まり、マクロな制度や政策に関わることが不十分となっているのではないだろうか。

ソーシャルワーカーのもう一つの価値は「社会正義」である。これは、貧困や差別、環境破壊などによって、人々が社会的に排除されることを許さないという価値である。現場において、社会的排除が生じている状況をキャッチし、個別支援を出発としながらも、そこだけで完結せず、制度・政策への反映も含めたソーシャルアクションがソーシャルワーカーの役割として強く求められている。

このようなソーシャルワーカーを養成する教育はいかにあるべきか。まずは、教育のあり方が問われてくる。今年度の教員研修テーマを「ソーシャルアクションの実践的教育」とし、「社会正義」をいかに教育するか、ソーシャルアクションを実践できる力をどのように教育するか、について研鑽する内容としたい。

まずは、現場の声を受け止めたい。社会的排除の現実、現場のソーシャルワーカーがどのような実践を展開しているのか、そして養成校に求めることは何か、である。現場の声から、どのように教育に反映させるべきかを議論に繋げていきたい。

また、本研修のテーマは次年度へ継続させ、養成校における教育報告、職能団体との連携のあり方、などに繋げる予定である。

2 開催日時・会場

(1)開催日時 : 2014年2月22日(土) 10:00~16:30 (受付9:30~)

(2)会 場 : 北星学園大学 A館 401教室
札幌市厚別区大谷地西 2-3-1

(3)対 象 : ①大学・養成校教員、②社会福祉の現場職員、③学生

(4)定 員 : 50名

3 参加費 : 1,000円(学生は無料) *お弁当は1,000円でご用意いたします。

4 参加申し込み

別紙の申込用紙にて、ファックス又はメールにてお申し込みください。(2月14日まで)

5 プログラム

10:00 開催の挨拶

社会福祉士養成校協会北海道ブロック運営委員長
北海道医療大学 教授 鈴木 幸雄

10:05 講演 社会福祉士養成校に求めるソーシャルアクションの実践的教育

ほっとプラス代表理事 藤田 孝典 氏

12:00 休憩

13:00 シンポジウム

コーディネーター 北翔大学 教授 林 恭裕 氏

現場報告 1 高齢者領域から

社会福祉法人美瑛慈光会地域密着介護事業部長 伊藤 秀之 氏

現場報告 2 障がい者領域から

さっぽろ地域づくりネットワークワン・オール

センター長 大久保 薫 氏

現場報告 3 地域支援領域から

地域福祉支援センターちいさな手 理事 清野 光彦 氏

現場報告 4 医療領域から

新さっぽろ脳神経外科病院

医療情報課長 医療相談室長 上田 学 氏

14:45 休憩

15:00 全体討論

16:30 終了の挨拶

社会福祉士養成校協会北海道ブロック研修委員長
専門学校日本福祉学院 丸山 正三

懇親会 17:00 頃より、懇親会を予定しています。是非、ご参加ください。

藤田 孝典（ふじた たかのり）氏

現職：NPO 法人ほっとプラス代表理事。社会福祉士。

学歴：ルーテル学院大学大学院博士前期課程修了。

活動歴：社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」委員など。

著書：共著『反貧困のソーシャルワーク実践—NPO「ほっとポット」の挑戦—』明石書店、2010年、『ひとりも殺させない～それでも生活保護を否定しますか～』堀之内出版、2013年など。